



# なごや「聖歌」だより 7月号'09

## イキのよい礼拝—指揮者の役割

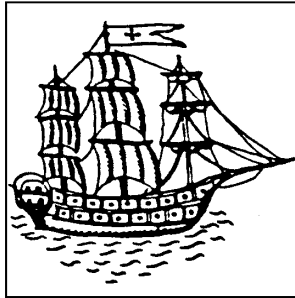
聖歌の指揮を学び始めた頃のことです。今日の聖歌はよかったとか、悪かったとか話していたところ、「悪いのは、すべて指揮者の責任だと思いなさい」と教えられました。

正教会の礼拝は船旅にたとえることができます。船長である司祷者(司祭)を中心に、役割分担して航海を進めます。チームワークです。中でも聖歌の占める割合は大きく、日曜日には全体の8割から9割が聖歌です。聖歌指揮者は司祭、輔祭、誦経者などと「息」を合わせ、礼拝全体の様子を見ながら聖歌の進行を調整するという重要な役目を担います。

正教会の礼拝では、歌、連祷、誦経などが次から次へと切れ目なく続いてゆきます。誦経の終わってから聖歌が流れだし、聖歌が終わらないうちに輔祭はイコノスタスの前にスタンバイし、すみやかに連祷を唱え始めます。指揮者は、誦経や司祭の高声が終わらないうちに次の音を取って与え、終わるのを待ちかまえて、スタート・サインを出します。誦経や司祭の音が終わってから、おもむろに「ド・ソ・ミ・ド」と音を取ったのでは、間があいて動きが止まってしまう。リレーのバトンタッチと同じです。目立たず、よどみなく、スピードを落とさず次へ次へとつながります。「ド・ソ・ミ・ド」の音取りははっきりと、しかし祈祷の流れを邪魔しないようにすばやく小声で伝えます。

「聖体礼儀」は初めの「父と子と聖神の国は……」から領聖まで、一気に昇り詰めてゆく動きです。いったん止まって、またヨッコラショと走り始めたのでは、イキが抜けて、一つ一つの要素がバラバラに散在する展覧会になってしまいます。個々の歌を上手に歌うだけでは「イキのよい」礼拝になりません。

「神の国」「主との交わり」へと向かっていく動きのエネルギーは、参祷者全員の祈りの「息」で作られます。参祷者の「息」を「神の国」へと促し、礼拝全体が生き活きと進むダイナ



ミックな上昇気流を支えるのも聖歌の役割です。教会が心を合わせて一つになって進むとき、神の息( Pneuma )、聖神の力が働いて、神の国の扉が開きます。

さて上手なバトンタッチには聖歌を歌うみなさんの協力が欠かせません。聖体礼儀が始まる前に今日のトロパリやポロキメンなどはどの調なのかを確認し、いくつかレパートリーが

ある場合は、今日どの歌を選ぶのか、指揮者の指示を仰ぎます。祈祷中は、常に「次」を意識し、すみやかにページをめくり、音をキャッチし、指揮者の合図に注目します。日頃の練習は欠かせません。

### 半田 正教の学び

#### 「正教会の礼拝と聖歌」

日時 2009年7月4日(土)、午後1時

場所 半田ハリストス正教会集会室

講師 松島純子

正教会は伝統を守る教会です。今行われている礼拝はキリスト教二千年の歴史のなかで形作られてきたものです。そこにはキリストの弟子たちの時代のもの、ビザンティン時代のものなど、ロシアのもの、明治時代の日本の教会で行われてきたものが今も生きています。

さまざまな時代、地域で生まれた多様な聖歌をご紹介しながら、正教会がどんな時代にも変わらず「伝えてきたもの」とそれぞれの教会に働く聖神(聖霊)の力によって生まれてきたものを見、本当の伝統とは何かを考えます。

## 聖歌練習

♪名古屋:代式後基礎練習。7月5日12日

代式祈祷の日は「お休み」ではありません。司祭不在の時、信徒が代わりに「礼拝を守る」日です。

発声、音取りなど基本からたっぷり練習します。

♪半田: 7月8日(水) 11:45ごろから

7月の指揮当番

19日 エレナ広石 26日 ビーメン松島

## ズナメニイ研究会 再開 第4回

7月18日土曜日10:00から

ズナメニイ聖歌の研究会を再開しました。前回は「常に福」後半を用いて、記号の読み方を練習しました。別の写本解説による「常に福」も比較してみました。西洋の影響を受ける前の正教会聖歌にはビザンティンから受け継がれた聖歌の伝統が生きており、ロシア聖歌を理解する上でも欠かせません。どなたでも参加できます。内容は以下のサイトにも掲載しています。

<http://www.orthodox-jp.com/liturgy/Znameny/>

## 聖歌の役割

正教会の奉神礼は「歌う礼拝」です。ことばの内容も音楽も実に多彩です。聖歌は、祝文（祈り）や誦経の間に歌われ、聖職者の行進に伴ったり、特別のルールに従って聖詠（詩編）の間に織り込まれて歌われます。聖歌のテキスト（詩）は聴く者の思考を、祭のテーマや聖人の記憶に集中するように促し、信仰上の大切な教義を人々に教える役目を果たしています。正しい教義が詩の形で、歌のことばとして教えられ、包括的な神学的教育となっています。ですから信徒は聖歌や誦経に耳を傾けることで、信仰上の大切な教義を学びます。音楽は感情に働きかけことばの受容を助けます。詩を運ぶ「乗り物」となって、聞く人の記憶と意識に詩の内容をしっかりと刻みつけます。

聖大ワシリー（バシレイオス）は音楽と詩のテキストの役割について語っています。「聖神（聖霊）は人を善に導く難しさを知っていた。私たちが快樂に傾き易く、すぐに正しい道から外れがちなことを知っていた。では神はどうされたか。教えに、メロディ（μελωδία）という甘い喜びを加えられたのだ。耳に心地よく調和するものとともに、ことばに含まれた有益なものを目に見えない形で受け取る。こうして、私たちのために調和のとれた聖詠の歌が発明された…」

ワシリーのことは絵空事ではありません。第2次世界大戦の少し前、カルパト・ロシア地方の村の教会では、会衆全員が歌っていました。各人が歌の本（сборник）を持って立ち、まず経験あるカンター（дьяк）が歌い始めます。聞き覚えのあるメロディが聞こえると男も女も子供達も唱和します。子供たちも歌のことばの多くを暗記しており、聖歌は人々の宗教教育に重要な役割をはたしていました。

聖歌は内容の特徴から6つに分類できます。

### 1. 厳密な意味での歌（イムヌス） ὕμνοι, гимны、

神を讃美する詩や、祈り（奉献）の詩による歌。

(例) 聖体礼儀、聖祭品の聖変化の時に歌われる歌

主よ、爾を讃め揚げ、爾を崇め歌ひ、爾に感謝し、我が神や、爾に禱る、

(例) 晩課の「聖入」神品が王門を通して至聖所に入る

聖にして福たる常生なる天の父の聖なる光栄の穩なる光、イイス・ハリストスや、我等日の入に至り晩の光を見て神、父と子と聖神を歌ふ、

### 2. 教義的な歌。

教義の重要点を詩の形で表す。たとえば、土曜晩課「主よ、爾によぶ」の最後に歌われる生神女ドグマティク богородичны догматики（ステイヒラ・ドグマティク）。ハリストスの藉身（受肉）や神の母（生神女マリア）の処女性を表す。

(例) 生神女ドグマティク第5調。

昔紅の海にて婚姻を知らざる嫁の記されたり、彼處にはモイセイ水を分かちつ者、ここにはガウリイル奇跡に務むる者なり、彼の時イズライリは足を濡らさずしてを歩み、今童貞女は種なくしてハリストスを生めり、海はイズライリの渡りし後、元のまま通られず、きずなき者はエンマヌイルを生みし後、元のままきずなし、永遠にしていと永遠なる者、人と為りて顕れし神よ、我等を憐み給え。

### 3. 歴史的事件を説明する歌

(例) 降誕祭りティヤのステイヒラ（5調、修士イオアンの作）

ペルシヤの王たる博士は明らかに天の王の地に生まれしを知り、光れる星に導かれてヴィフレムに至り、精選の礼物、黄金乳香没薬を献げて、伏して拝めり、洞の中に無原なる赤子の臥し給ふを見ればなり。

### 4. 教訓的な歌。

神への祈りを含まず、歌う説教という手法で聞き手に直接語りかける。

(例) 大斎第1週月曜日晚課、挿句（くづけ）のステイヒラ3調

我等主に悦ばれ受けらるる斎を守らん、真の斎はすなわち悪事を離れ、舌を慎み、怒りを置き、諸欲を断ち、誇り、いつわり、誓いに背くことを除く、これ真の斎にして受けらるべき者なり。

### 5. 黙想的な歌。

(例) 聖大土曜日の讃揚のステイヒラ（2調）

今日枢は手に造物を保つ者を保ち、石は徳にて天を覆う者を覆い、生命は寝ね、地獄は戦き、アダムはなわめより釈かる、神よ、光栄は爾の慮りに帰す、爾は此を以て万事を成しおえて、我等に永遠の安息として、爾の至聖なる死よりの復活を賜えり。

### 6. 奉神礼上の動作に付随する歌。

動作の象徴的な意味に関連する。数としては少ない。多くの場合聞き手に向けて語られる。たとえば、聖体礼儀の大聖入（聖体機密に用いられるパンとぶどう酒が厳粛な行進をして奉献台から宝座に運ばれる）に歌われる「ヘルビムの歌」。黙想的要素と、奉神礼的な動作にふくまれる象徴的意味の説明の二つが混合している。

(例) ヘルビムの歌

我等奥密にしてヘルヴィムを象り、聖三の歌を生命を施す三者に歌いて、今この世の慮りを悉く退く可し。

これらの例から見ても、祈禱書のことばが信者の基本的な神学教育に重要な役割を果たしていることがわかります。会衆全員が聖歌に参加すれば、さらに大きな力を発揮します。

Johan von Gardner, *Russian Church Singing*, SVS

## ホームページのご案内

○ 「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料